
第3回 ごみ処理基本計画策定検討専門部会 議事録（要旨）

- 1 期日 令和5年10月19日（木曜日）13時30分から15時30分まで
- 2 場所 古賀市役所2庁舎2階 中会議室
- 3 出席委員（6名）

部会長	島岡 隆行	委員	渡邊 裕子
委員	小林 智美	委員	花田 徳弘
委員	武田 京子		

欠席委員（1名）

委員	上杉 昌也
----	-------
- 4 傍聴者数 なし
- 5 事務局出席者職氏名

環境課長	吉永 ゆかり	資源循環推進係長	安藤 恵一
環境課係員	橋爪 恵里		
- 6 一般財団法人九州環境管理協会出席者職氏名

環境計画課	藤原 佐保子	環境計画課	真玉 明子
-------	--------	-------	-------
- 7 議題
 - ・第3次ごみ処理基本計画（素案）について
 - 第1章 基本計画の趣旨
 - 第2章 古賀市の概要
 - 第3章 ごみ処理の現況と課題
 - ・第3次ごみ処理基本計画 数値目標について
- 8 配布資料
（事前配布）
 - ・古賀市環境審議会（ごみ処理部会第3回）次第
 - ・第2次計画（現行計画）と第3次計画（改定案）施策の比較表【参考資料1】
 - ・第3次古賀市ごみ処理基本計画（素案）【資料1】
 - ・第3次古賀市ごみ処理基本計画 数値目標検討資料【資料2】

概要

1. 開会あいさつ

- ・環境課長よりあいさつ。
- ・委員および事務局紹介。

2. 報告事項

- ・第2次計画（現行計画）と第3次計画（改定案）施策の比較表【参考資料1】

3. 議事

(1) 第3次ごみ処理基本計画（素案）について【資料1】

- ・資料に基づき、事務局より説明。
- ・質疑・応答。

○島岡部会長： 第3章の「第2次計画期間の主な取組み」と第4章の「施策の展開」は同じような内容か。

●事務局： 第3章については実績を踏まえたうえで課題を整理した。この課題を踏まえて、方向性や具体的施策を第4章に示す予定としている。

○島岡部会長： 課題の整理と施策はかなり近いものになるのか。

●事務局： 現行計画から逸脱しない範囲で改定案を提示した。【参考資料1】に示すとおり、「1.生活系ごみ」では昨年10月からフードドライブ事業を進めており、食品ロスを減らしていくため新たに施策として提案した。

「2.事業系ごみ対策」では現行計画に同じような内容の施策があったので統合し整理した。現行計画と改定案では、施策の7割が同じ内容であり、残りの3割が新たに加えたものや統合したものとなっている。改定案は市が提示する素案であり、抜けている視点や盛り込むべき内容について意見をお聞きしたい。巻末に用語集を付ける予定であるため、わかりづらい用語があれば意見をいただきたい。

○島岡部会長： 1ページに図1「SDGsの17のゴール」があるが、SDGsは2030年をゴールとしており、本計画の目標年度である令和15（2033）年には終了している。この図は小さくするか、あるいは載せなくてよいのではないか。

●事務局： 大きさについては小さく調整する。今時点では、世界的流れとしてSDGsが掲げられているので掲載はさせていただきたい。5年後の中間見直しの時に掲載の仕方を再考したい。

○島岡部会長： 古賀市の人口は減少傾向なのか。

●事務局： 現時点では微増しているが、今後減少は予想される。

○島岡部会長： 人口動態や産業の発展や大きなプロジェクトなどがあれば文章で示してはどうか。

○渡邊委員： 産業のところで「鋳工業が市内総生産額の41.5%を占める」とあるが、他の産業も書いていただきたい。市民の多くがどのような職業なのかの方がよい。

- 事務局 : 国勢調査による第1次産業、第2次産業、第3次産業の就業人口を記載する。古賀駅周辺の再開発なども記入ができればと思うので検討する。第1次産業、第2次産業、第3次産業など市の概要については策定中の環境基本計画でも掲載するためバランスを整えながら書き込みたい。
- 島岡部会長 : 住宅開発により人口が増えるなど、ごみと関連するような概要について文章で説明があるとよい。
- 事務局 : 人口については第4章で過去の人口推移と今後の推計人口を掲載している。この推計値をもとに古賀市のごみの量や資源化率等を示している。
- 島岡部会長 : 古賀市の災害はどうか。昨今の気候変動はごみ問題と連動している。
- 事務局 : 大規模災害はほとんどないと記憶している。
大雨で川が少し氾濫したりとかはあったが頻繁ではない。
- 島岡部会長 : 久留米のような災害があれば10年分くらいのごみが出る。ごみの仮置き場所やリサイクルをどうするのかという問題も出てくる。
- 事務局 : 災害ごみについては、「古賀市災害廃棄物処理計画」があるため、そちらで述べさせていただきたい。災害が起きた際の大量ごみの仮置き場は自治体の課題である。概要として載せられる部分については検討する。
- 渡邊委員 : 山元還元の利用はエコロの森のごみ処理残渣のことと思うが、図12でリサイクル率16.6%となっているが、山元還元による資源化量は古賀市だけの値か。
- 事務局 : 他の自治体でも山元還元は発生している。資源化の計算方法を他の自治体と比較したとき、古賀市では山元還元分を資源ごみとして計上していなかった。これを加算するとリサイクル率が2.6%増加した。
- 島岡部会長 : 玄界環境組合の山元還元の量は古賀市の分を分けて計上しているのか。
- 事務局 : ごみの搬入量で案分している。
- 渡邊委員 : ごみを搬入する際に住所を確認しごみの量を測っている。
- 島岡部会長 : 山元還元は溶融飛灰。1,300~1,400℃でごみを溶かし、低い温度で蒸気になる金属がある。温度を上げると鉛のガス、亜鉛のガスになって灰に移行する。灰を見ると20~30%の鉛や亜鉛が入っており、自然界よりも高い純度で鉛や亜鉛の鉱石が入っている。大牟田にある鉱山会社が買い取り、精錬し鉛や亜鉛のインゴットを製造している。
- 島岡部会長 : 12ページのごみ組成調査は令和4年の調査だが、今後はどうするのか。
- 事務局 : 今後は5年ごとの調査を考えている。中間見直し時に実施したい。
- 島岡部会長 : 玄界環境組合としては過去数十年分のデータがある。
- 事務局 : 玄界環境組合のデータを見たが、このごみ組成調査結果とだいぶ違う。おそらくが事業系が含まれているため、生ごみの比率などが異なっている。玄界環境組合にも確認する。
- 島岡部会長 : 12ページの家庭ごみ組成調査は何によるデータなのか。
- 九環協 : 昨年11月に実施した調査で、家庭ごみに出されたごみ袋を抽出し中身を確認している。実施できる回数が限られることから、雑草などが少な

い 11 月に実施した。また、山間部か都市部かなど地域によって内容が違ってくるのでそれぞれの地域で同量をサンプリングした。乾重量と湿重量でも違ってくるので両方の調査結果を示している。

- 渡邊委員： 山間部や都市部でサンプリングを採られたということか。
- 事務局： そうである。4 地区で 100 kg の家庭ごみを収集し組成調査を実施した。回収量が少ないのではないかとの指摘があり、前回の専門部会で古賀清掃工場や周辺自治体のごみ組成調査結果との比較をご説明した。先ほどの説明のとおり、真夏ではない時期に実施している。
- 島岡部会長： 清掃工場での焼却処理は古賀市独自ではなく、組合で運用しているため、古賀市としてすべきことと、他市町と協力すべきことを分けて考えるべき。本日、組合の委員会に参加したが、ワイヤーなどの金属が可燃物に入っているため、機械に絡まり止まってしまう。各市町で徹底して可燃物に金具を入れないよう、住民へ働きかける必要がある。古賀市民として SDGs や循環型社会に向けた動きや、ごみ組成を考慮したリサイクルに向けた動きもある。ごみ組成がベースとなるが、この調査結果をどのように使うのか注意する必要がある。これからのごみ組成調査をどれくらい実施するのか。
- 事務局： 毎年の調査は困難だが、計画の見直しなど節目には実施したい。
- 島岡部会長： 人間の健康診断と同じくごみ組成調査はごみ処理施策のベースとなる。トレンド把握のため、毎年ごみ組成調査を実施してはいかがか。
- 事務局： 年 1 回の実施はなかなか難しい。少なくとも計画の見直しの時期には実施したい。
- 島岡部会長： 福岡市では毎月実施している。組合で調査しているので、自治体の調査は 5 年に 1 回でいいとなってしまう。本来は自分の地域で処理するものだから、悠長なことは言ってもらえない。春夏秋冬か、毎月の調査が必要。
- 事務局： 予算が絡むためここで結論は出せないが、調査の在り方を検討したい。
- 島岡部会長： 福岡市ではごみ試験場もあり、委託せず自分たちで調査している。
- 事務局： 経年での比較検討ができるように条件をそろえて調査していきたい。
- 島岡部会長： その他はいかがか。
- 事務局： 18 ページごみ処理事業経費の文章の 2 行目について、令和 3 年度から令和 4 年度に訂正をお願いする。
- 島岡部会長： 同一の内容を示す用語として「リサイクル」「再利用」「再使用」とややこしい。計画書中では統一すべき。
- 事務局： 最近の国のホームページでは、「リサイクル率」という単語がよく使われている。ただし国や県の直近の計画では「再生利用率」という単語を使っている。本市の第 2 次ごみ処理基本計画では「資源化率」という単語を使っている。どの言葉が一番市民に響くのか、事務局でも方針がまとまっていない。これについてもご意見を頂きたい。
- 島岡部会長： ごみについても「ごみ」「一般廃棄物」「産業廃棄物」などがある。「一般廃棄物」の中に「事業系ごみ」もある。言葉の使い方を統一する必要

がある。

- 渡邊委員： 「(2) 家庭系ごみ対策」に外国籍の市民への啓発とある。SNS を使い動画で実物を見せながらやさしい日本語を使って発信すると、外国の方にも分かりやすいのではないか。SNS は利用されているようだ。
- 小林委員： ベトナムの方であれば英語に限らず母国語の文字を付けるとわかりやすい。
- 渡邊委員： ベトナムの外国籍労働者が多く、ベトナム語などは言葉が難しい。
- 事務局： 日本語で説明するにしても母国語の字幕を付けるならば、対応可能かもしれない。
地域の分別収集会場の方から分別回収方法を示す動画があると助かるというご意見をいただいている。課題を整理し検討したい。
- 島岡部会長： 動画は作成するのか。
- 事務局： 見て分かる方が使われやすいというご意見を頂いているので、貴重なご意見として承りたい。
- 島岡部会長： 見える化ツールはこれから作成するのか。
- 事務局： 第2次古賀市ごみ処理基本計画が策定された時期には、環境省が見える化ツールを作成しており、これを活用して分析できる仕組みがあったようだ。しかし、引き継ぎ等がうまくできていない。今後は、見える化ツールを使用するより、ごみ処理削減につながる情報発信の方が効果的ではないかと考えている。
- 小林委員： 6月に外国籍の方向けに開催されたごみ出し講座では、どのように告知や募集をされたのか、どのくらい集まったのか説明をお願いしたい。
- 事務局： 古賀市まちづくり推進課へグローバル学院から実施依頼があった。これを受け、環境課から出前講座を実施した。「何月何日に市役所でするので、参加して下さい」と募集したのではなく、学校に出向いて実施した。
- 小林委員： 欲を言えば、古賀市内に居住する外国籍の市民全員が参加できるとよい。また、どのような内容を発信されたのか。以前の会議でも発言したが、自分から集まる方はごみ問題への意識が高く、来ない方にこそ参加して欲しい。また、受講された後にどれくらい理解いただけたのか。
- 事務局： 終了後にフィードバックのための聞き取り調査は行っていないが、クイズを出し、認識の共有を行った。思ったよりも正解率は良かった。間違いやすいところは手直しをしながら、正解率 100%近くとなった。本物のごみ収集用のコンテナを持参し、分別の○×クイズを実施した。
- 小林委員： 楽しんで参加されたようでありによりだ。渡邊委員が発言された動画についても、ゼムクリップとかホチキスの芯の捨て方など、テーマをピックアップして短編動画を作られてはいかがか。燃えるごみについて分かっているつもりでも、これはどうなのだろうと思った時に、その部分だけを見れば分かるという動画なら、需要があるのではないか。
- 島岡部会長： 既にホームページにパンフレットは載せているのか。
- 事務局： パンフレットは PDF 形式で掲載している。

- 島岡部会長： 動画もホームページに載せていくのか。
- 事務局： 動画を作成するならば、ホームページ上で公開することとなると思う。
- 島岡部会長： 見える化が難しいのであれば、インターネットを活用した情報提供など見出しを変えられてはいかがか。
- 事務局： 視覚に訴えるため、広報のやり方を考えなければいけない。
- 島岡部会長： 施設整備についてはどうか。古賀清掃工場は20年以上経過しており、大規模な改修や建て替えもあるかと思う。
- 事務局： 清掃工場は組合で運用されているため、市の方針を記載できないが、更新時期をまもなく迎えるという視点で何かしらの記載はしたい。
- 【参考資料】2枚目の最後から2番目に、処理施設の適正かつ効率的な運営として記載している。
- もし将来工場のあり方が変わった時の地域の方々の分別収集の方法など、市民がどのようにお考えか、地域の分別収集のあり方について、ご意見をお聞かせいただきたい。
- 武田委員： 分別収集後に見ると、本来出すことができないブロックやレンガ、大きい蛍光灯のカバーなどがあり、2カ月くらい放置される。分別して一番困るのは、長いものを入れるコンテナがあるが、皆さんその担当を嫌がる。本来なら箱に入るサイズのものを入れるはずなのに、そういう細かい指導をする人がいない。自分が指導に立っている時には、キャリアケースを持ってきた方へコンテナをお見せし、ここに入らないものは自分でごみに出していただくよう説明している間に、別の人たちが置いていく。他の月の当番では、そういう指導をしてくれる人がいない。地域で研修を受け説明できるように、本当は組の中で指導していくべきだが、組長の学習会をやってないようだ。
- 渡邊委員： 私の住んでいる地域では、組長になったらエコロの森に見学に行き、説明を受けているため割と分別は出来ている。中には、口にキャップが付いている牛乳パックなどを見ても、断りづらい方もいる。小林委員の地域はいかがか。
- 小林委員： 筵内地区ではあまり大きな問題はないと思う。一番の問題は高齢化。各組で当番を組んでいるが、高齢のため負担が大きく担当を外す方が年々増えている。今はまだ保っているが、同じ時期に子育て世代の方が家を購入した地域では、一緒に高齢化が進んでいる。土地を手放すなら変わるかもしれないが、このままでは10年後には当番に何人出られるのか、という状況。高齢者が多いため、集積所に持ってこられないという問題も発生しつつある。
- 事務局： ありがとうございます。小林委員のご発言について、今後も適正かつ効率的な運営をするため、ごみ処理基本計画でも地域性を保持しながら対応できるようなごみ処理の効率的な在り方を考えていかなければならない。どのレベルまで示せるか検討したい。
- 小林委員 今頑張っている方の年齢は80歳前後である。80歳前後の方が一番地域

に密着し、ごみの分別の経過も全部理解し頑張っておられる。

- 島岡部会長： 高齢者への対応として、今後戸別収集を検討するのか。
- 事務局： 可燃ごみは戸別収集だが、資源ごみは分別収集である。福岡市では不燃ごみ袋があり戸別収集できる。古賀市の場合、可燃ごみについては、収集経路の範囲内であれば戸別収集しているが、資源ごみについては月に1回、収集場所に出しに行く際、70～80歳で足が不自由になると、敷居が高くなっているという話を聞く。
- 問い合わせがあった場合に、シルバー人材センターや社会福祉協議会の利用を案内している。高齢化が進むとこのようなサービスの利用も増えるため、全てシルバー人材センターに頼るのではなく、環境課としてどう対応していくべきか検討する必要がある。
- 先ほど説明した「古賀ふれあい収集事業」は、可燃ごみの回収だけであり、資源ごみに関しては現時点で対応していない。今後の課題と考える。
- 島岡部会長： 10年間の計画なので、10年後にはどうなるか、自分たちの事として考えて、計画への反映を検討する必要がある。
- 渡邊委員： 資源ごみは分別品目も多く、12品目ある。
- 小林委員： 個人的なことだが、以前福岡市に住んでおり、マンションに大きなごみ置き場があり、可燃ごみも不燃ごみも回収日に出せた。階段を降りて置いておけば、回収時間やカラスを気にする必要がなく、非常に便利だった。古賀市でもそうしろという意味ではないが、高齢者だけでなく病気の方もおり、10～20kgのような重いものでなく、ごみ袋に入れた空き缶を運ぶだけでも大変な方もいらっしゃる。可燃ごみを置ける場所を作り戸別収集しているが、それと別に、不燃ごみについても何か一番多い品目だけでもよいので、できるだけ近くでここに置いておけば回収してもらえる場所ができると、そういう方が少しは助かる。ご近所同士の助け合いとして、集積所まで持っていくのは大変だが、近くにあるならば隣の家へ寄って一緒に持って行ってあげる、という方もいらっしゃるのではないか。
- 事務局： 仮に、ビンやカンについて少し離れた場所で収集できるようになった場合、高齢の方などは20～30m袋を持って歩くのも困難なものだろうか。例えば集積所などを作った時に、便利になったとの思いが強いのか、可燃物は玄関先に出せるのに、離れたところに運ばないといけないと、デメリットの方が大きいと感じられるのか、どちらだろうか。
- 小林委員： 個人差があり人による。収集頻度は同じという仮定で考えて、今収集場所に持って行く場合には、家から車に積み込み、車で行く。運転ができなければ持って行けない。免許返納された方もいる。その際に、ご近所の方にちょっと頼るとか、シルバー人材センターなど、行政と別の部分でお互いに助け合う場合には、持って行ってあげる側にとっても、遠くに行くよりは近くの方がよい。20～30m持って行くのも大変な方は、おそらく玄関の土間を降りることから大変だと思う。それが100mでも3

mでも変わらない。とにかく近くなるのがありがたい。頻度が同じならば、ごみの量も同じなので、もし実現するならば、頻度もせめて倍くらいにしてもらえると、持って行ってもらえるのではないかと。

- 島岡部会長：古賀市のごみ収集体制の見直しの時期が来ていると思う。高齢化が進んでいる。様々な自治体を見て検討してはどうか。
事業系ごみ対策やパートナーシップづくり、環境教育についてはいかがか。
- 渡邊委員：ぐりんぐりん古賀も高齢化しており、協働が難しくなっている。資源循環に関する環境アドバイザーが3件、環境アドバイザーの登録は4件とあるがこれはどのような状況か。
- 事務局：ごみ減量や3R、てんぷら油のリサイクルなど、自然循環に関する環境プログラムが計4件登録されている。
- 渡邊委員：実際にはどれくらい活動されているのか。
- 事務局：現時点ではいずれも派遣実績はない。来年度には、食用油を使ったキャンドルづくりとして、てんぷら油のリサイクルを環境アドバイザーの原田社長にご協力いただき実施したいと考えている。
- 渡邊委員：先日実施した雑紙の出前講座は環境アドバイザーではないので活動実績に入らないのか。
- 事務局：雑紙はまちづくり推進課の所管のまちづくり出前講座なので含まれない。まちづくり出前講座に組み込まないとなかなか広がらないのではないかとという意見も出ている。
- 渡邊委員：まちづくり出前講座は皆様に利用されているが、環境アドバイザーの存在や、利用についてアピールできているのか。
- 事務局：毎年、年度始めに学校の校長先生や教頭先生が集まる会で、環境課の職員が環境アドバイザーと環境プログラムの資料を配布し紹介している。ただ学校で利用されていない。推測だが、年度当初には一年間の学校のカリキュラムが決まっているのではないかと。年度が変わって資源循環を入れようと思っても、時期的に間に合わないため、先生たちが見送る状況を毎年繰り返しているのかもしれない。
- 渡邊委員：小学校と中学校にも行かれているのか。
- 事務局：小中学校の校長先生などが集まる会で紹介している。カリキュラムを決定する時期に、環境プログラムの周知ができると良いので、周知方法を検討したい。
先日、玄界高校の生徒が総合学習で環境について聞きに来られた。高校でもある程度のニーズはあるのではないかと。昨日はフードドライブの話を知りたいということで学生達と1時間くらい話をした。先生方は特に総合的な学習の中で環境に関するプログラムを活用したいのではないかと。上手く周知できる方法を考えなければいけない。
- 渡邊委員：私も新宮中学校の総合学習の時間に、ごみと環境というテーマで話に行った。古賀市ではないが、新宮中学校では何年間か続けて訪問している。

- 小林委員： 小野小学校では毎年4年生を対象にホタルの会がホタルの授業をしている。ホタルの親を捕まえ、教室で飼育し、卵を産ませ、孵化した幼虫を飼育し、目の前の川に放流をするところまでを一貫して実施している。その中で環境のことを考える。放流した川の生き物調査も行う。生き物を捕まえて、この川はどれぐらいの自然が保たれているかという指標となる。環境教育に関して決して消極的ではない。先生方か教育委員会かはわからないが、いつ頃にカリキュラムが組まれるのかりサーチが肝要となる。環境プログラムは、依頼されてからでないといけないという縛りはあるのか。PRとして、模擬的にワークショップ的なものを実施してはどうか。これから毎週のようにお祭りや子どものわくわくフェスタもある。可能性があるのであれば、玄界高校の文化祭でワークショップをしないかと打診してはどうか。ただ待っているだけでなく、こういうプログラムがあると知っていただく必要がある。
- 島岡部会長： 環境アドバイザーとか出前講習とか、宣伝が足りないのかもしれない。周知されると学校の方から「このような内容で話をしてくれ」となるかもしれない。
- 小林委員 災害時の対策についての施策に関して。古賀市はまだ大規模災害が起きていないが、大雨は毎年何回もある。古賀市でも大雨警報は何回もあったが、その際に浸水したのかはどのように調査しているのか。浸水したと市役所に連絡があったらそれが1件となるのか、何かしら調査されているのか、現状把握の仕方をお尋ねしたい。
- 事務局： 家の床下浸水であれば、私の記憶する限り、古賀市では発生していないのではないか。
- 小林委員： 今年の大雨で、旧3号沿いのほっともつとや薬局がある通り沿いの店舗で床上浸水があり、行政相談をされたと聞いた。その地域の方は大雨になるとその周辺は大体浸水すると仰っていた。
- 事務局： 駅の西口の店舗の周辺では浸かりそうな被害があったと、商工政策課の担当職員から聞いている。それが件数に挙がったかは把握していないが、最終的には市役所の災害の担当部署を通じて報告が挙がってくる。総務課を通じたものが正式な件数になると把握している。環境課としては罹災証明がないとなかなか動けない。罹災証明を取られた方から相談があれば、清掃工事への搬入について減免している。
- 小林委員： ここ1～3年で災害時の対策や被害はどの程度あるのか。土砂崩れなどの大きい災害はすぐ分かる。もう少し雨が降ったら、この場所でどうなるかなど、潜在的なボーダーラインがあるのではないかと。それを把握できれば、いざ氾濫した時に早く手が打てる。災害時の対策についての項目があるので、これを把握するための施策が、何かあるとうれしい。
- 事務局： 詳細は災害廃棄物処理計画に盛り込む内容となるが、このごみ処理基本計画の中で、もう少し具体的に見える形にすると読みやすくなるかもしれない。

- 小林委員： 災害で発生した廃棄物の量は把握しているのか。
- 事務局： 罹災証明で減免した量については、把握している。
古賀市災害廃棄物処理計画は随時見直しを行っている。大量に出た災害廃棄物をどこに仮置きするのかなどは、まだ決めきれていない。すぐに改定するとは言えないが、そのような方向性も含めて災害廃棄物処理計画の見直しについても、検討すべき事項と考える。
- 島岡部会長： 災害廃棄物は法律上一般廃棄物に含まれるため、各市町村に処理責任がある。ただ、古賀市では組合で処理されるため、ギャップが生じて難しい。例えば古賀市だけで被害があった場合に、他自治体から「これは古賀市の災害廃棄物で市が独自に処理すべき、うちの処理量の何倍もの災害廃棄物を持ってこられたら困る。」という言い方をされる場合もある。常総市など関東の方で日頃うまく連携が取れていない場合の事例である。災害廃棄物は各市町村の管轄となるため、自分たちで産業廃棄物業者に依頼すべきと言われる。組合全員に被害があればよいが、古賀市だけの場合に問題が起こる。普段良好な関係を築かれていれば問題ない。
協定を結ぶとよい。災害があった時には、組合全員協力しあって、ごみを収集し、場合によっては仮置き場所として持ち込んでもよいというようなことも協定で結んでおくとうい。
- 事務局： 現時点では関係は良好と思っている。
- 島岡部会長： ハザードマップも見て検討して欲しい。
- 事務局： ご意見については、古賀市災害廃棄物処理計画の随時見直しの中で、今後の課題として考えていきたい。

(2) 第3次ごみ処理基本計画 数値目標について【資料2】

- ・資料に基づき、事務局より説明。
- ・質疑・応答。
- 島岡部会長： 全国的に見て古賀市がどういう位置付けにあるのかを見るため、できるだけ国、県が使っている目標がよい。
- 事務局： 古賀市でも国、県と比較できるような指標にしたい。「リサイクル率」と書いたが、市民向けの用語として「資源化率」のままがよいのか、「再生利用率」や「リサイクル率」の方がよいのか、ご意見をいただきたい。
- 島岡部会長： 今までは「資源化率」を使用していたのか。
- 事務局： 第2次ごみ処理基本計画では「資源化率」としている。その時点では、国や県では「再生利用率」を使用している。
- 島岡部会長： 「再生利用率」は少し分かりづらい。「資源化率」の方が分かりやすいのではないかと。
- 事務局： 「資源化率」という単語は、おそらく国も県も使われていない。
- 島岡部会長： 「リサイクル率」は使っているのか。

- 小林委員：市と国と県が全部バラバラというのが一番分かりにくい。
- 事務局：国の指標として「再生利用率」と記載しているが、昨今の調査では「リサイクル率」という単語が使われている。県の直近の計画では「再生利用率」が使われている。古賀市第2次ごみ処理基本計画では「資源化率」という単語を使っている。
- 小林委員：県は「再生利用率」のままか。
- 事務局：次の計画で「リサイクル率」になる可能性はあるかもしれない。県に確認をとれていない。
- 小林委員：国が「リサイクル率」に変えるのであれば、そこに追随する自治体は増えるのではないか。逆に国が「リサイクル率」に変えたけどやはり「再生利用率」に戻そうという動きがあるのか。国と県で違うのであれば、どちらかには寄せてほしい。
- 事務局：島岡会長が言われたように、第2次ごみ処理基本計画の「資源化率」が浸透しており、引き続き用いる場合には、カッコ書きで（リサイクル率・再生利用率）と捕捉説明を加えて、古賀市では引き続き「資源化率」を使うことも可能。市民に一番伝わりやすい用語がよいと考える。
- 渡邊委員：「リサイクル」がわかりやすいのではないか。
- 島岡部会長：循環型社会形成推進基本計画では、「入口のリサイクル」「出口のリサイクル」という言葉が使われ始めた。出たごみの何割が資源化されるのかが「出口のリサイクル」。「入口のリサイクル」とは製品を作る際にどれだけの廃棄物を出して製造されたのか。「サーマルリサイクル」は燃やして熱を回収する。古紙を紙に再生するのではなく、古紙やごみを燃やしてそこから出る熱量を回収する。様々な言葉に「リサイクル」と付く。「資源化率」は出ていくところだけで、再利用された廃棄物の量として、10年間使われた言葉なので「資源化率」もよいのではないか。「再生利用率」というのは何となくよく分からない。皆さんの意見はいかがか。私にとって「リサイクル」は大きな意味に感じられる。
- 渡邊委員：専門家のご意見としてなるほどと感じる。若い人などには「リサイクル」に馴染みがあり、使いやすいのではないか。
- 小林委員：使い慣れた言葉ではある。
- 島岡部会長：事務局で決めていただいてはどうか。
- 事務局：今のご審議の内容を踏まえて再考する。
- 島岡部会長：数値目標についてはこれでよいか。
- 事務局：目標指標として1人1日当たりの生活系ごみ排出量としているが、これとは別に家庭系ごみ排出量を目標指標に含めた方がよいか。
- 島岡部会長：よくわからなくなるので、入れない方がよいのではないか。生活系ごみから家庭系ごみを引くと資源ごみであるならば、目標指標にリサイクル率（資源化率）がある。家庭系ごみを入れず、生活系ごみだけの今のままでよいのではないか。
- 事務局：リサイクル率で資源化する量かわかるので、家庭系ごみの量も把握でき

る。生活系ごみ排出量のみで進めてよいか。

○ 渡邊委員： 自分が出しているごみがどのくらいの量なのかを考えた時に、生活系ごみに、回収とか資源量とかも入るのであれば、1人1日当たりの家庭系ごみとした方が、自分はこれくらいごみを排出しているのだとイメージしやすいのではないか。

○ 島岡部会長： 家庭系ごみの目標値もあるのか。

● 事務局： リサイクル率と生活系ごみの目標値から家庭系ごみの目標値も算定できる。目標値として書かなくても、市としては毎年家庭系ごみの排出量は把握する。

【資料2】数値目標検討資料の3～4ページに示すとおり、国と県は生活系ごみではなく、家庭系ごみを目標指標としている。提案した計画素案では、そもそものごみ排出量を減らす視点から、生活系ごみの排出量を目標指標とした。先ほどご意見があったとおり、国も県も家庭系ごみの排出量を目標値としているのであれば、比較できるように両方を指標として示すのも、事務局として問題ないと考えている。

○ 渡邊委員： 3ページの国の指標には家庭系ごみ排出量と書いてある。

○ 島岡部会長： このような国や県の目標と比較するためには、生活系ごみよりも渡邊委員が言われているように、家庭系ごみの方が比較しやすいし、生活実感としても分かる。意見が振れるが家庭系ごみの方がいいのかもしれない。

● 事務局： 両方指標とするか、それとも家庭系に絞った方がいいのか、ご意見をおききたい。指標としては問題なく計算できる。

● 九環協： 資料の6～7ページに、古賀市と国や県を比較した経年グラフを載せている。図2は1人1日当たり生活系ごみ排出量の推移で、図3は1人1日当たり家庭系ごみ排出量である。古賀市の生活系ごみ排出量はかなり低いレベルで抑えられているが、家庭系ごみはそれより増える。何が家庭系ごみの量を押し上げているのかというと、リサイクルや資源ごみの量である。実は資源ごみについて、市が全量を把握できるわけではなく、民間業者に引き取られている資源ごみの量は把握できない。そういう視点でもどちらがよいのかを考える必要がある。

○ 島岡部会長： 目標値はあまり高くない方がよいのではないか。家庭系は資源ごみを引いた量となるので、再生利用率またはリサイクル率で目標を掲げるので重複する。目標はシンプルな方がよい。

● 事務局： リサイクル率で家庭系ごみ量は判断できるため、生活系ごみ排出量のみ目標としたいがよいか。

家庭系ごみ排出量についても統計的にすぐ算定できるため、国と県と比較した、古賀市の道筋は検討できる。

○ 島岡部会長： 古賀市環境白書には家庭系ごみ排出量が載っているのか。玄界環境組合では、非常に精緻なデータを過去20年以上持っている。ただし、組合全体のデータのため古賀市の分は判らない。

- 事務局： 我々がこれを集計する際のデータソースは玄界環境組合の年報である。これに集団回収など玄界環境組合では把握されていない情報を、足し合わせ集計している。
古賀市環境白書には家庭系ごみ排出量が載っており、生活系ごみはない。家庭系ごみと資源化率と事業所系のごみ処理量が載っている。ごみ処理基本計画で目標指標に定めれば、環境白書がこれに合わせて次年度から載せることとなる。
- 島岡部会長： 時間となった。今の意見を元に事務局でもう少し検討いただきたい。
- 事務局： 次回のごみ処理専門部会で提案する形としたい。
- 島岡部会長： 会議を開くほどでもないが、今日の意見を受けて決定した内容を送付してほしい。時間が長くなって申し訳ない。
- 事務局： 承知した。
リサイクル率の目標数値について。今後、古紙類の集団回収量が統計に反映されなくなるため特に厳しい。リサイクル率を10年間に5%上げないといけない。ハードルは高いと思いながらも、ある程度国や県の基準には近づきたいという目標値に設定した。本当に苦しいところではある。
- 島岡部会長： 業者に流出した資源化量の分が入ってないということか。
- 事務局： 業者の回収量が我々の方で把握できない。潜在的な資源化率はもう少しあると思うが、例えば、コンビニエンスストアの回収ボックスやペットボトルの量は、我々のところには数値化されない。我々が集計をする手段がない。さらに、今年度から古紙の集団回収補助がなくなり古紙の回収量が把握できなくなるため、資源化率に1.5%くらい影響がある。このような中で20%という目標値は、我々も難しいと思いながら提案した。資源化量の数値を提供してもらえないかと業者に交渉したが対応不可との回答だった。潜在的な資源化量を把握できれば、もう少し数値としては上がるが、現時点では把握できない。
- 島岡部会長： コンビニやイオンなどの販売量を把握し、どういう商品をどれだけ販売したかをもとに、ごみの排出量を算定するという研究をしている。商品の滞留時間、冷蔵庫に入っている時間を調べることにより、ここで販売されたものは何日後に出ていくのかを推計している。
- 事務局： 将来それが計数化して可視できるようになれば、より実際値に近い資源化率が把握できると思う。
- 島岡部会長： 目標数値はこれでよいか。
- 渡邊委員： 8ページの福岡県内における1人1日当たりごみ排出量の表では、福津市の資源ごみの量が多い。みやま市はもっと高い。
- 事務局： 福津市が高い理由として、空き缶の回収にも奨励金制度があると聞いている。
福津市には林田産業があるため、おそらくグリーンリサイクルについては我々古賀市より進んでいるのではないかと。

- 渡邊委員： 無料で持ち込めるのではなかったか。
- 事務局： 公設ステーションのような場所があり、シルバー人材センターの方に委託している時間帯であれば無料で持ち込める。それ以外の場合は料金を取っていると聞いた。おそらく限定的だと思われる。先日、林田産業からお聞きした。古賀市でもグリーンリサイクルについて何かいい手段がないか林田産業へあり方などを相談している。
- 島岡部会長： 全国のリサイクル率は現在約 20%であるので、それくらいを目標に掲げないといけない。
- 事務局： 令和 2 年度の全国平均は 20%で、古賀市では 10 年後の目標として令和 2 年のリサイクル率に追いつきたい。
- 渡邊委員： なぜ古賀市のリサイクル率が低いのか。
- 小林委員： 布の影響がある。以前は集団回収していたが廃止した。
- 武田委員： 陶器を集団回収に持って行ったら割っている。それを見て欲しいという方もいる。衣類もそうだがうまく使い回せるとよい。
- 小林委員： 小野小学校などで、要らなくなった衣類など布類を集めて雑巾や切ってウェスにする活動をしている。
- 事務局： 布関係についても何かしら方策がないか、先進事例などを研究していかないといけないだろうというご意見と受け止めた。
- 武田委員： まずは家庭でウェス作りを推奨してはどうか。油汚れが取れるので、水も節約できる。簡単に可燃ごみに出さないようにしてほしい。
- 島岡部会長： 研究が施策に入っている中で、その中でリサイクル率を上げるにはどうすればよいか研究されてはどうか。フローを見て「これが可燃ごみになっているためにリサイクル率が上がらない」など。
- 渡邊委員： そうしないと 20%はなかなか達成できない。
- 島岡部会長： 20%まで上げなければ全国平均にも届かない、アメリカではリサイクル率が高く 30%ある。その残り 70%は埋め立て処分で焼却はあまりしていない。私も 1 年間集めたが、ペットボトル、空き缶などきちんと全部分別していた。落葉樹なんかも集めて肥料にしていたと思う。20%くらい、頑張っ方策、対策を検討して欲しい。
- 事務局： 【参考資料 1】について、冒頭で説明した通り、赤で記載した箇所が、我々が新規に取り組もうとしている施策で、青で記載した箇所が統合した施策である。他は基本的には同じ内容で改定案を提示した。こちらは計画素案の 4 章と 3 章に反映し、次回第 4 章について審議いただきたい。
【参考資料 1】をお読み頂いた上で追加した方がよい施策や、これだと伝わらないなどのご意見をいただきたい。
- 島岡部会長： プラスチック製品については記載があるか。
- 事務局： 【参考資料 1】改定案の 2 枚目の最後、「循環型社会の形成に関する研究の継続」に記載している。現在古賀市では製品プラスチックの分別収集はしていない。北九州市では始まったと聞いた。古賀市では昨年度に先行試験ということで、実証実験に参加したが、まだ具体的な方向は定ま

っていない。この方針については構成市町の協議も必要になってくるため、製品プラスチックの分別のあり方を継続協議し、第3次計画期間の中で考えていくことを記載した。会長ご指摘の通り、どのようにしてリサイクル率を上げるのか、組成調査の結果を活用し割合が高いものについては、どうすべきか書いた方がよいのか、今回の審議を聞いて改めて感じた。例えば生ごみについては、乾かしたら水分がこれだけ減るので、水分の絞りが足らないなど調査の結果についても検討したい。

- 島岡部会長： 生ごみは80%が水分なので、水切りして軽くしようということだが、生ごみの量は一緒。本当は食物残渣が出ないようにすることが大事。
- 渡邊委員： その前の段階で、食品ロスが出ないようにすべき。
- 事務局： 【参考資料1】に新規施策として(4)食品ロス削減について何かしら触れていきたい。料理を作るにあたって使い切ることを。それが大前提になる。伝わるように施策に盛り込みたい。
- 島岡部会長： 表題に「水切り」とあるので、そこは消してはどうか。4Rのリフューズはごみになるものは受け取らない。マイバッグの考え方にも近いが、そういう見出しにするとより本質的になる。
- 事務局： 4Rを意識したタイトルとしたい。
今日は時間が押しているので、【参考資料1】についてはまたご一読いただいて次回ごみ処理分解会で4章を審議する際に、ご意見等いただきたい。よろしく願います。
- 島岡部会長： 今後またもう1回あるのか。
- 事務局： 次回、環境審議会を開催した後に実施できるよう調整する。環境審議会はあと2回開催する。11月下旬に開催する環境審議会でごみ処理基本計画の進捗を説明する。その後ごみ処理専門部会で第4章と総括など1時間ほど審議いただきたい。そこで整理したものを12月に答申していただきたい。よろしく願います。
- 島岡部会長： 長くなったが、有意義な部会となった。司会をお返しする。

5. その他

<事務局からの連絡事項>

- ・報酬と費用のお支払いについては、後日指定口座に、審議会分と併せてお支払いを考えている。
- ・今回の審議会の会議録については、まずメール郵送等でご確認頂き、会長の確認後、皆さまにお渡しする。
- ・次回第4回のごみ処理部会は11月下旬を予定している。

6. 閉会
